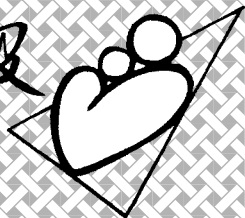


新潟県養護教員研究協議会

会報


 光輝
 かかやき

第312号

 平成17年
 1月11日
 発行

 新潟県養護教員研究協議会
 事務局 新潟県立長岡高等学校

養護教員の活躍を願って

新潟県小学校長会長 丸 田 勲



この度の新潟県中越地震で被災されました学校、児童生徒・教職員の皆様、とりわけ養護教員の皆様には心からお見舞い申し上げます。

地震発生以来、テレビを始めあらゆる報道をとおして被災地の状況を見守ってきました。刻々と報道される被災地の状況は、かつて発生した神戸淡路大震災の惨事以上に胸に迫ってくるものがありました。また、被災現地に入ると、報道ではとうていわかり得ない被害状況の悲惨さに言葉もありませんでした。4人の児童が亡くなられたことは心痛迫るものがあります。心からご冥福をお祈りいたします。

被災地の学校では、地震発生以来、校長先生を中心に学校の災害復旧、児童生徒の安否の確認、避難所の開設や地域の方々のお世話、授業再開に向けた取り組みに全精力を費やしての大活躍と聞いています。それは、並大抵のことではなく、まさに寝食を忘れ、児童生徒・学校、地域のために死にものぐるいであったと聞いています。

そんな様子を見ていた災害復旧に当たっている方々や、地域の方々から、教員の復旧に当たる一途さ、生真面目さ、一生懸命さが評価され、改めて、教員の使命感に燃えるすばらしさが認められています。

今、被災した児童生徒に喫緊に求められていることは、心のケアです。時間が経過するにつれて大きく、強く、そして深くなっていく心の緊張・ストレス、トラウマを、早急に解きほぐしておかなければならないといわれています。

心の相談には、県教育委員会で派遣する心の相談カウンセラーや県小・中学校長会で派遣する心の相談教員も重要ですが、児童生徒の状況を熟知している当該校の養護教員が最適であることは言うにも及びません。時間がいくらあっても足りない状況であることは明白ですが、派遣された人々に対しての情報提供や留意事項の伝達などの協力体制を十分に機能させるとともに、自らがカウンセリングを行い、相談相手となり、じっくりと話を聴くことが何よりも大切なことです。

最後に、児童生徒の気持ちが安定し、教育活動が一日も早く通常の情態になるよう、養護教員の皆さんが先頭に立って教職員とともにご活躍くださいますようお願いいたします。



- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ●新潟県
小学校長会長挨拶／1 | ●お隣さんこんにちは／6 |
| ●私の実践／2～4 | ●大好き……
保健室の先生／7 |
| ●中越地震災害ボランティア
文部科学大臣表彰／5 | ●おすすめ・お知らせ／8 |

私の実践

小学校の実践

わかる!楽しい!保健学習を目指して

弥彦村立弥彦小学校 鈴木裕子



1 はじめに

保健学習をするようになって、5年目になります。教科体育(保健領域)に養護教諭が関わっていくことは、楽しいことであると同時に、難しさを感じることも多くあります。今年度は12年経験者研修ということもあり、5年保健学習「けがの防止」の単元について兼職発令を受けて行った実践を紹介します。

2 実践について

救急処置場面での児童との関わりの中で、以前から軽度のけがについては「自分で処置する、できる」ことが重要であると考えていました。けがの手当てに関する知識や技能は日常生活の中で活用する場面が多いと思われます。そこで以下のように、単元を構成し、手だてを考えてみました。

① 身近な場面からの課題設定

- ・ねこのちゅうがえりVTR(動物のけがから体を守る働き。人間はどうやって身を守る?)
- ・クイズ こんな時、どうする?初級編
(けがをした時、何をしたらいいか)
- ・クイズ こんな時、どうする?上級編
(友達がおぼれて、息が止まっている。何をしたらいいか)
- ・クイズ 交差点で事故が起こりそうなところを探せ!

② 体験活動の重視

- ・3つの実験「瞬目反射(目の前で拍手をしたら?)」「姿勢反射(後ろから背中を押したら?)」「脳の構造(豆腐を落としたり?)」

- ・6つの実習:グループで役割を決めてけがの手当てをし、よかったところを発表し合う。



頭を冷やそうね。
大丈夫ですよ~!

はれているかな?
まずは観察!



A ライフスキルに着目した指導過程

- ・今まで自分がしたけがから「ズバリ!これが私のけが防止法」を考える。
- ・ここがあぶない!通学路や遊び場所は安全?併せて、「けがの防止について目指す児童の姿」「必要だと思われる具体的なスキル」などを考え、指導した。

3 おわりに

児童の感想を読むと、「楽しかった」「おもしろかった」「よくわかった」というものがかなりあります。しかし、保健学習のねらいは楽しいだけでは達成されたことにはなりません。保健学習で得た知識、授業で行ったスキルなどが生かされ、日常生活の中で児童自身が行動・実践してこそ、ねらいが達成されたといえるでしょう。今後は、保健室でのけがの手当て時の個別指導や掲示物などで、指導内容に継続性を持たせ、児童の「けがの防止」実践化を促していきたいと考えます。

中学校の実践

保健学習「エイズ及び性感染症の予防」

津南町立上郷中学校 大沼朋子



1 はじめに

日本における、HIV感染者・エイズ患者そして、その他の性感染症は年々増加の一途をたどっている。性と対面する時期がきたら「自分にもかかりうる感染症である。」と生徒自身が自分の問題としてとらえられるように、以下のような指導を行った。

2 実践の内容

今回の保健学習では、「エイズ・ピア・エデュケーションマニュアル」にそって、科学的に感染経路について学習を進めた。以下に、その具体的な話の内容（感染経路についてのみ）を記載する。

感染経路について

？最初に「HIVが血液に入って感染する。」と話しましたが、血液や血管が外にむき出しになっているところはありません。血管やそれ以外の組織を外界から守っているものが、「皮膚」と「粘膜」です。

①「皮膚」は、とても丈夫なバリア。傷口や湿疹などの病気がない限り、皮膚からHIVは体に入らないのです。

A それでは、「粘膜」はどこにあるかわかりますか？粘膜は、口の中、胃や腸の壁、生殖器の中を覆っています。尿道の内側や膣や肛門も粘膜です。粘膜は、傷口がなくてもHIVがつくと、それだけで身体の中に入ってしまいます。

B 次に、HIVがたくさん存在していて、HIVを感染させる体液は4つだけです。「血液」「精液」「膣分泌液」とそれと「母乳」です。この4つで感染します。これ以外の体液は安全です。

このように話した結果、性感染症が接触感染ということイメージしやすくなった。

エイズ及び性感染症の指導においては、病気が怖いというイメージが残ってしまう。そこで予防法や治療法について十分に話し、安心感を持たせるよう配慮した。

また、この授業後に地域の助産師さんの講話「生と性について」を、下記のような内容で1時間設けた。

- ・助産師として生命誕生に立ち会えるのは素晴らしいこと。
- ・赤ちゃんは最高のエネルギーを発して生まれてくること、最高のお父さんとお母さんを選んで生まれてくること。
- ・親はどんなことがあっても子どもの味方であり、子どもは何より代え難い存在であること。
- ・性の大切な目的と準備のある性行動を考えてほしいこと。
- ・男女の性意識と性行動の違いについて知り、自分の心を偽ってまでも、相手と関わろうとしないでほしいこと。
- ・妊娠をしたら、どう行動したらよいかということ。

生徒の授業後の感想から、助産師さんとの連携は、生徒にとり、自己決定を促すうえで有効であると確信した。

3 おわりに

本来ならば、今年度の本学習は10月29日、11月1日に実施予定でありました。しかしながら、今回の中越地震により、昨年度の実践を載せております。被災された学校関係の皆様方に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

高等学校の実践

修学旅行事前指導の再考

～マンネリ化せず、学校の実態に応じて見直しを～

新潟県立新潟東高等学校 黒井 真由美



1 はじめに

遠足や修学旅行など、校外で行われる学校行事は、生徒が社会や自然の中で見聞を広め集団行動の体験と集団生活への適応を図るよい機会である。合わせて心身の健康増進、自己管理能力を高める機会でもある。しかし、事前指導は案外マンネリ化しているのが実情ではないだろうか。そこで本校の実態を考慮し、事前指導を大幅に見直すことにした。

2 本校の現状と課題

本校では、喘息や心疾患などの持病を持つ生徒が多い。最近では沖縄旅行が多く、体験学習としてのマリンスポーツやトレッキングを実施している。8クラス320名での団体旅行である。これらの現状から、修学旅行の事前準備期間を早めに設定、指導時間を増やした。また合わせて、健康・安全教育の機会と考え、その内容を再検討した。

修学旅行の準備日程	準備内容
2ヶ月前	修学旅行前健康診断の日程調整
1ヶ半月前	有疾患生徒の把握と個人面談
1ヶ月前～健康診断迄	有疾患生徒の家庭への診断書請求
3週間前	健康調査表(問診表)の配布 保護者あて文書配布(事前連絡) 健康診断対象者名簿作成
2週間前	修学旅行前健康診断、相談実施 要注意・要観察生徒 資料作成 緊急連絡網、体制作成 引率者会議(資料説明) 事前指導(1回目:全体・女子) 救急バック整備点検
1週間前	保健だより配布 事前指導(2回目:全体) 引率者(保健係、旅行社)引継ぎ
前日	生徒の健康状態最終チェック(担任)
帰宅後～1週間	事後指導(食中毒の早期発見) 旅行中の事故、病気の把握と保険申請

3 事前準備・指導の実際

① 健康診断

有疾患生徒の把握は保健調査を中心にプライバシーを配慮しながら慎重に行った。入学後の資料や健康診断では、把握しきれていないケースが多い。(保護者側で病名を伏せていることがある)必要生徒全員から診断書の提出をしてもらい、保健担当職員と担任はコピーを携帯し、緊急時の対応を行うようにした。

② 女子指導

私服(リゾートホテル宿泊のため、私服が条件とされている)、生徒のみの個別研修、夜間外出(夕食後、買物等の外出が可能)を考慮し、特に女子指導を強化した。服装指導や性被害防止指導、護身術指導を取り入れた。その場での実技指導は好評であった。

A 救急体制

現地の医療機関の確認は、事前に旅行業者との打ち合わせを通して行う。さらにインターネットで病院地図や診療内容を確認し資料として添付した。養護教諭不在の旅行では緊急体制の準備や緊急対応マニュアルは引率者のためにも必要である。また職員の緊急処置指導にも最適の機会である。旅行先によっては、都市部と違い救急車が到着する時間も違うので、事前に調べて資料とした。

4 おわりに

養護教諭にとって修学旅行の引率は体力勝負で、精神的に辛いことも多い。寝不足は当然で、予測し得ない事故に対する精神的なプレッシャーもある。昨年の引率では、夜間に高速を使い救急病院を受診したり、緊急入院で夜間付き添ったりと事故が続いた。準備期間は十分あるので、その学校事情により計画的に進めていく必要がある。養護教諭は、校外活動の引率者、指導者の一人であるため、担任との連携を十分にいき、その上で生徒、職員への保健指導の絶好の機会として、有意義に活用し事故防止と健康教育に今後も努めていきたい。

中越地震に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます



中越地震災害 ボランティアに参加して

上越市立城北中学校 大西美恵子

上越市支部は、11月6日～11月28日の休日に合計25人がボランティアに参加しました。福島会長からの発信は「何かしたい!」と思っていた私達を動かしてくれました。各地のボランティアセンターに問い合わせましたが、心のケアという受入窓口がなく、参加者の安全面を考えて上越市災害ボランティアバスに同行。作業は、全国から届いた山古志村の方への救援物資の整理。被災者のニーズに応じた物資が手元に届くようにと心をこめました。上越の仲間の温かさを感じた爽やかな体験でした。



中越地震災害 ボランティアに参加して

県立出雲崎高等学校 金子直子

長岡の避難所へボランティアとして参加しました。初対面の私たちでしたが、「いかがですか?」と声をかけると、不安や絶望感、野菜不足、体調不良等々、色々な胸の内を吐き出すようにお話してくださいました。話を聞いてもらうだけでうれしいと涙を流される方もおいででした。また、子どもたちは明るく元気そうに見えるのですが、おんぶをせがんだり、真っ黒に塗りつぶした人物ばかりを描いたり、確実に傷付いていることを感じざるを得ませんでした。子どもたちの心のケアの必要性を感じました。

文部科学大臣表彰

文部科学大臣表彰をお受けして

新潟市立青山小学校 根布秀子



平成16年10月28日、福島県郡山市で開催された第54回全国学校保健研究大会で、文部科学大臣表彰をお受けいたしました。

学校保健関係者、個人の部145名のうち養護教諭は18名でした。新潟県養護教員研究協議会の推薦をいただいたからこそでした。

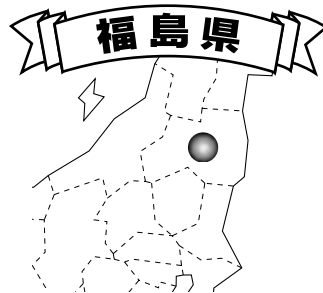
30余年間、子どもたちからパワーをもらい会員の先生方から支えていただいたお陰でございます。特別なことをしてきたわけでもなく、あたりまえのことを、あたりまえにコツコツと積み重ねてきただけです。

学校内においては、どちらかというと目立たない縁の下の力持ち的存在である養護教諭という職名に、この表彰を与えていただいたと受け止め、皆様を代表して頂戴してまいりました。

これから活躍される若い養護教諭の皆様の励みになれば...と思っております。

「まず子どもありき」「継続は力なり」を心に止め、先生方と共に歩んでいきたいと思っております。

お隣りさん こんにちは



福島県学校保健会養護教諭部会
会長 鈴木智子

新潟県養護教員研究協議会の皆様、こんにちは。福島県学校保健会養護教諭部会です。

このたびの新潟県中越地震では非常に多くの県民の皆様が被災されましたことにお見舞いを申し上げます。また、多くの学校が避難所となり復興活動や、児童生徒の心のケアなど非常にご苦労されていることとお察し申し上げます。

さて、福島県では福島県学校保健会養護教諭部会として、小・中・高・盲・聾・養護学校の会員あわせて944名で活動しています。会長・副会長・本部役員からなる本部役員会、16支部・5ブロックから選出された常任委員・評議員からなる常任委員会・評議員会により部会を運営しています。

主な事業は、年2回の常任委員会と、総会にあたる評議員会、そして毎年開催している福島県養護教諭研究大会です。

今年度の第29回大会は会員の8割以上が参加して、去る7月28日に開催いたしました。「これからの養護教諭の在り方」生きる力をはぐくむための心と体の健康教育づくりをめざして

の主題のもとに、午前は小・中・養護学校それぞれの実践研究の発表、研究協議を行いました。午後からは、医師で落語家でもある立川らく朝氏による「ヘルシートーク」笑いながら学ぶ生活習慣病と題した講演を頂きました。研究協議では、健康教育全体構想のもとに学校保健の

積極的な実践を目指した研究や、心の健康と生活習慣にポイントを置き、実践的な能力を育成するための健康教育の研究、特殊教育諸学校における健康診断の在り方についての研究発表があり、健康教育を推進するための養護教諭の在り方について研究協議を深めることができました。講演は健康課題のひとつである生活習慣病について、楽しくわかりやすい内容で保健指導や授業、教職員の健康意識の高揚を図るためのヒントを得ることができ大変好評でした。

この研究大会は、教育委員会や学校保健会の協力を得ながら、県内6地区で持ち回りで実行委員会・事務局を組織して開催しています。次年度には30回大会、また18年度には部会結成60周年記念大会を迎えます。研究協議の在り方や地区持ち回り等の問題はありますが、今後も、小・中・高・養の連携を図った研究組織を生かし、養護教諭の研修の場として充実した研究大会を運営したいと考えています。

その他に、広報活動として機関誌「すこやか」を年2回、「会報」を毎年発行しています。

このたびは、福島県の活動紹介の場を与您いただき、ありがとうございます。新潟県とは磐越西線や国道49号線・磐越自動車道などにより交通の便はよいのですが、研究会としての交流は初めてとなります。本県部会としては、全養連や東北地区養護教諭連絡協議会等により他の研究会との情報交換を活発にし、より充実した部会運営を図りたいと考えております。今後とも、隣の県のよしみでよろしくお願ひいたします。



大
き
好

保健室の先生

忘れられない養護教諭との出会い



息子の不登校で 得たもの

五十嵐光子

〇先生との出会いは小学3年生だった息子の不登校からでした。担任の先生が男の方で話をしても方向が見えず、そんな時に手を差し伸べて下さったのが〇先生でした。やっと受けとめて下さる方に出会えてどれだけ救われた事が。息子に対する対応の相談はもちろんの事、いつの間にか家庭の話が中心になってきました。それというも〇先生が自らの体験を話して下さい、同じ嫁という立場で同じ目線で私の話を聞いて下さったのです。そこには先生と保護者という垣根がなく、同じ女性同士としての関係づくりをして下さったように思います。息子が学校に行っていないのに私が学校に行くのも気が重く、気が引けるのを奮い立たせても、もらいました。まさしく学校とのパイプ役の〇先生でした。14年たった今、思い返すと〇先生に出会ってなかったら息子と一緒に泥沼に入りこんでいたかもしれません。お陰様で1年程で徐々に保健室登校をしながら学校に行けるようになりました。何よりも親自身が、元気である事が子供にとっても活力になるのではないのでしょうか。その元気の源を作って頂きました。最後に〇先生の事で忘れられない事があります。小学校では夏の行事で2Kmの遠泳がありますが、その時に〇先生は生徒の名前一人一人呼んで励ますのです。全員です！名前を全員覚えてらっしゃるのです。毎年です。子どもたちの事を本当に温かく見守っていらっしゃいました。改めて感謝しております。本当にありがとうございました。



家族の心を 支えてくれた先生

高居レイ子

このたび中越地震により、被害を受けられた皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。私も被災者の一人として、行き場のない恐怖の瞬間を体験しました。しかし多くの皆様の温かい励ましで支えて頂き、大変心が和みました。

13~14年前になります。我が子が青年期に差し掛かった頃から、家族の中に大きな問題が発生しました。不登校や家庭内暴力を症状とする心の混乱に直面させられたことでした。それまで家族の中に「ある」と信じていたものが、次々と崩れ去り喪失してしまいました。実は親が勝手に描いていた子どもの未来、親の幸福感、家族相互の信頼感、子どもたちも含めた家族成員各々の内的な自己価値等です。その喪失反応としては、不安、怒り、悲哀、虚脱感があり、最終段階で受容と信頼、希望などの心の機能が回復しました。

子どもが通う学校の養護教諭I先生に私たち親子は精神面でご指導して頂きました。結果的に内的な自己価値の修復を行うことができ、そして家族成員全てが再生の道程を歩くことができるようになりました。

現在、息子は結婚し子どもも生まれ、私はおばあちゃんになりました。当時の問題発生とI先生との出会いがきっかけで、私は病院で心の病を抱える患者さんへのサポートを専門職業として行っています。当時、先生から支えて頂いた受容と共感に満ちた心のケアが常に私の職場での基本となって忘れることはありません。私たちを支えて頂いた養護教諭I先生に感謝したいと思います。



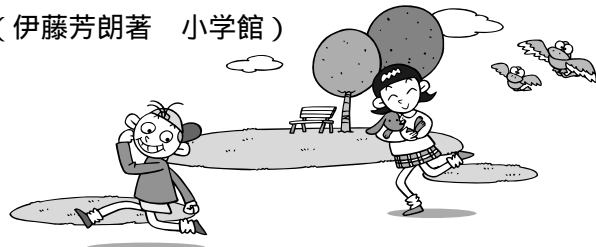
おすすめします! こんな本・教材

特別な子の特別な事件ではない

新発田市立本田小学校
古田島直子

この本には、重大な事件を起こした少年たちの素顔が、担当弁護士によって語られています。読んでみると、彼らが育ってきた背景の切なさに胸を締めつけられます。事件を起こした少年たちは「居場所がない」「頼れる人がいない」子どもばかりです。読むほどに、はじめから悪い子なんていない、事件を起こす前に温かい居場所や愛情を彼らに与えることができたら、こんな惨い事件は起こらずに済んだのに...と、やるせない気持ちになります。様々な事例から、子どもが健やかに育つためには何が必要なかがみえてきます。では、今の私に何ができるのだろう。目の前にいる子どもたちの存在や思いを精一杯受けとめよう、でも、それだけでいいのかな? もっと何かができるのかもしれない。本の中だけの特別な子の特別な事件とはいえないのだから。そんな問題提起をしてくれる一冊です。

(伊藤芳朗著 小学館)



●7・13水害の義援金を被災された方にお届けしました。

- 兵庫県養護教諭研究会連盟の役員の方々より水害義援金を頂きました。被災された学校に消耗品でお届けしました。
- 中越地震の災害ボランティア活動等については、後日まとめたいと考えています。

記述式 心の処方せん

湯沢町立湯沢中学校
山田英子

「心につかえているものがあるけど、どうしていいかわからない。」そんな混乱した気持ちを整理させてあげたいときに活用できる一冊です。

くやしかったこと、出会いなど10のテーマ別になっているので悩みに応じて、コピーを

して渡しています。書くことによって抑えこんでいた気持ちを発見できるので、自分をさらけ出すことが苦手な生徒でもやってみたくなるワークシートがたくさんあります。

「何を書いた?」は聞かずに、見せるかどうかは本人の判断にまかせています。



(渡辺ミサ・小林昭文共著
二見書房)



編集後記

昨年は、大きな水害と地震に心を痛み、養護教諭として何ができるのかを考えさせられた年でした。一人一人が心に刻んだ教訓を生かして、私たちの会が更に厚みをつけていく新しい年としたいものです。(会報担当 小方・福原・太平・渡辺)